

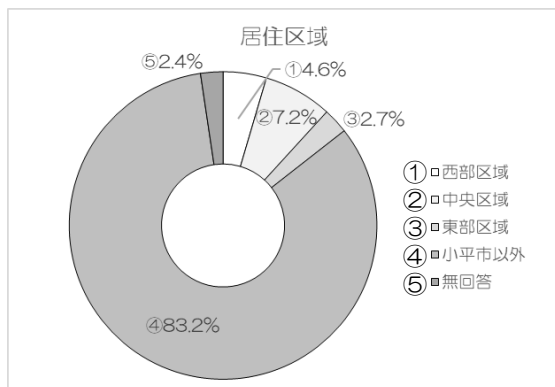
4. 対象分類別集計結果

「3. 中央エリア・小川エリアの集計結果と傾向」では、両エリアを比較した結果、エリアの違いを要因とした大きな差異は見られませんでした。アンケート対象とした、「学生」「在勤者」「子育て世代」「障がい者」についても、エリア別の大きな差が見受けられなかったことから、本章では、対象分類別集計結果として、「学生」「在勤者」「子育て世代」「障がい者」のそれぞれの場合において、集計結果から特徴が見られた結果を抽出し、傾向をまとめました。

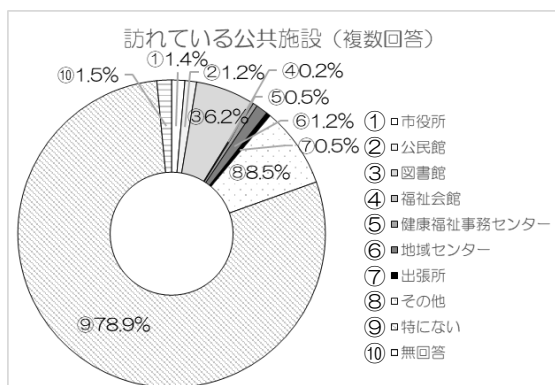
(1) 学生

学生対象の集計は、総数 1,554 人分のうち、637 人分の回答となっています。以降の円グラフの割合（％）は、分母を 637 とした場合の各回答数の割合です。

※ただし、複数回答可の場合は、（※）の数字を分母とします。

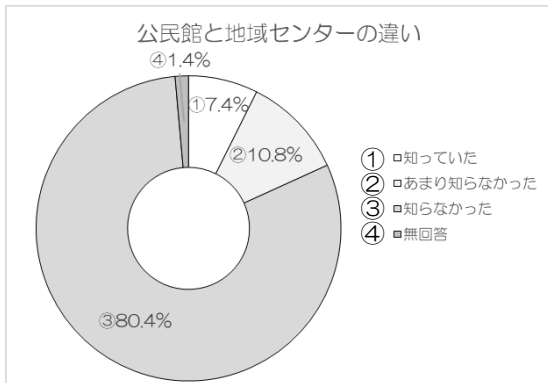


「居住区域」については、83.2%が「小平市以外」と回答していました。今回は、高校以上を対象としており、市外からの通学者が多かったためです。

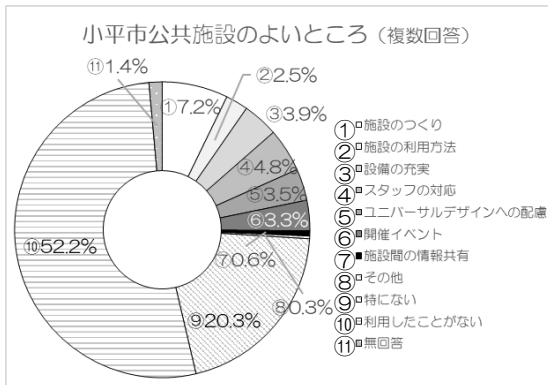


「訪れている公共施設」については、「特になし」が78.9%と8割近くを占めており、「その他」が8.5%でした。結果から、3番目に多かった「図書館」の6.2%以外は、ほぼ市内の公共施設を訪れていないことがわかります。

（※複数回答可のため、650 のうちの割合）

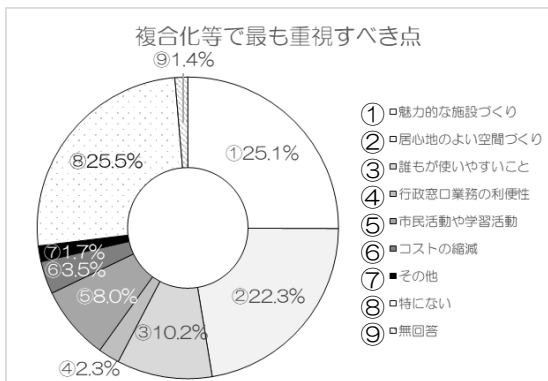


「公民館と地域センターの違い」については、「知っていた」が7.4%に対して、「あまり知らなかった」が10.8%、「知らなかった」が80.4%と、9割以上がほぼ知らないという結果でした。

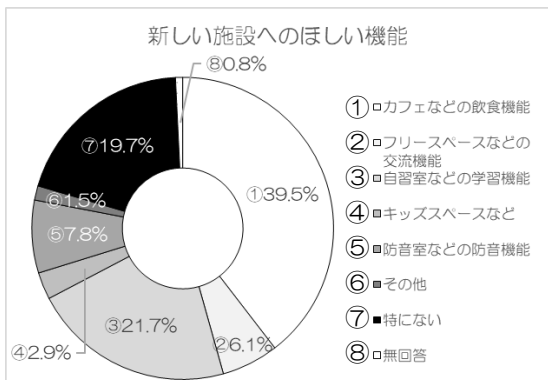


「小平市公共施設のよいところ」については、「利用したことがない」が52.2%、「特にならない」が20.3%となっており、合わせて72.5%となりました。

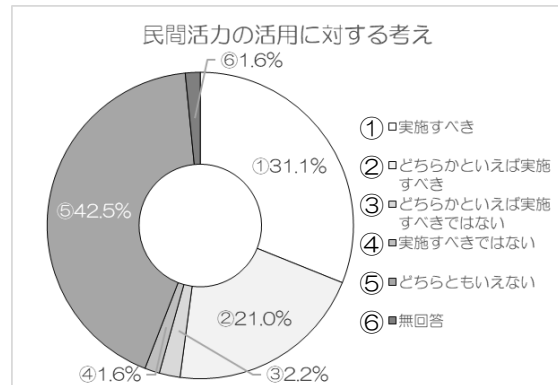
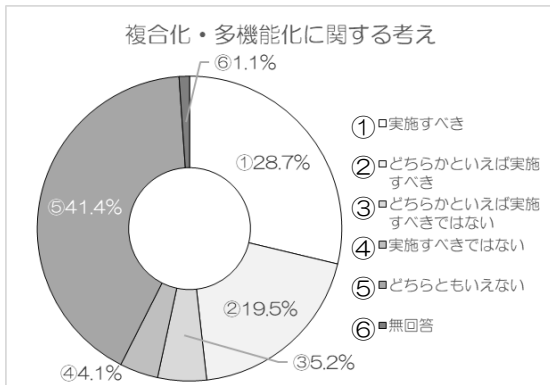
(※複数回答可のため、693のうちの割合)



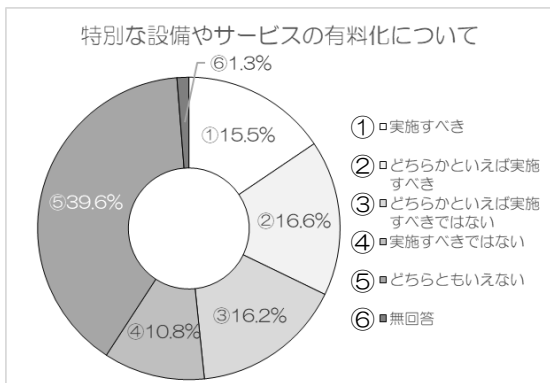
「複合化等で最も重視すべき点」については、「魅力的な空間づくり」の25.1%と、「居心地のよい空間づくり」の22.3%が多く、その他多かったのは「特にならない」の25.5%でした。「特にならない」については、訪れている施設について8割近くが「特にならない」だったことと関連していると考えられます。



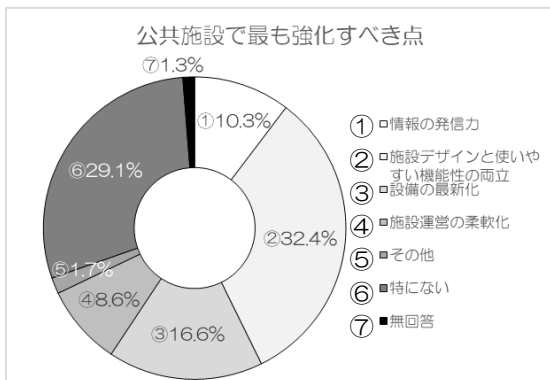
「新しい施設へのほしい機能」については、最も多かったのが「カフェなどの飲食機能」の39.5%で、2番目に、「自習室などの学習機能」で21.7%でした。また、「防音室などの防音機能」の7.8%は、他の対象と比べて多く、楽器練習やダンスなどで利用したいというニーズが窺えます。友達と放課後に立ち寄れる場所、帰宅する前に課題を終えられるよう学習できる場所を求めている傾向が見受けられます。



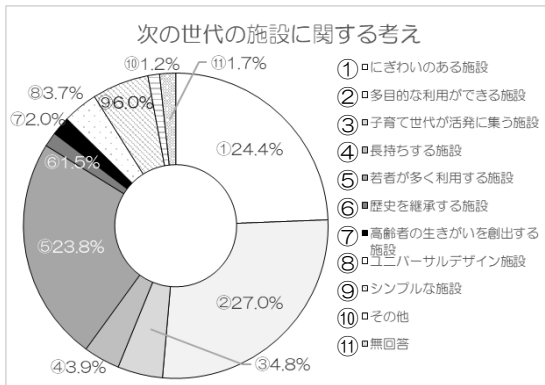
「複合化・多機能化に関する考え」と「民間活力の活用に対する考え」については、「どちらともいえない」が40%以上となり、普段訪れない、利用しないという傾向があることや具体的にイメージしにくいことで回答の判断ができなかったという可能性があるといえます。



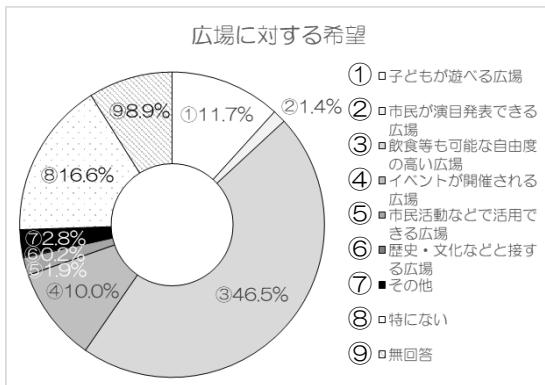
「特別な設備やサービスの有料化について」は、「実施すべき」、「どちらかといえば実施すべき」を合わせて32.1%、「どちらかといえば実施すべきではない」、「実施すべきではない」を合わせて27.0%となり、どちらも同じくらいの意見がありました。また、「どちらともいえない」が39.6%と最も多くなりました。



「公共施設で最も強化すべき点」については、最も多かったのが「施設デザインと使いやすい機能性の両立」の32.4%で、次いで「特にない」の29.1%でした。普段の利用頻度の低さから具体的に浮かばなかった影響があると考えられます。「その他」については、「設備の最新化」16.6%、「情報の発信力」10.3%という結果でした。



「次の世代の施設に関する考え」については、最も多いのが「多目的な利用ができる施設」で27.0%、次いで「にぎわいのある施設」24.4%、「若者が多く利用する施設」23.8%となりました。



「広場に対する希望」については、「飲食等も可能な自由度の高い広場」が46.5%となり、その他としては、「子どもが遊べる広場」（11.7%）や「イベントが開催される広場」（10.0%）などがありました。「特にない」が16.6%、無回答が8.9%となっており、若い世代では新たな公共施設への関心や期待が比較的低いことが分かります。

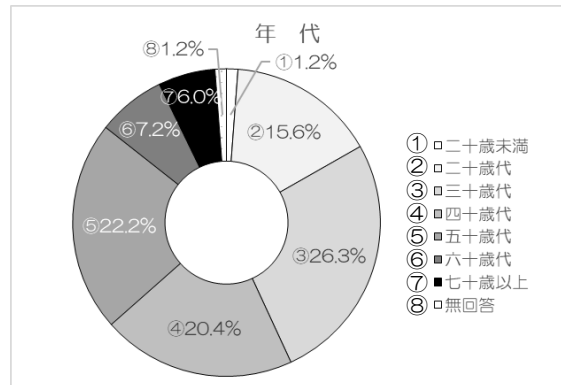
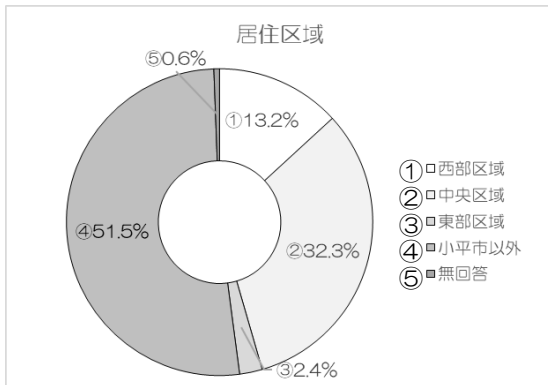
学生の集計結果として、全体的な傾向を踏まえると、まずは、高校生以上に関しては市外からの通学者が多いため、学校の所在地やエリアに関係なく、市内の公共施設の利用率は低いということが分かりました。市外からの通学者も通学途中や休日に訪れて使いたいと思えるような施設づくりを検討していく必要性も感じさせる結果となりました。

また、複合化や多機能化、民間活力の活用や有料化などの項目については、比較的「賛成」という結果が多かったものの、「どちらともいえない」がどの回答についても40%以上と多く、回答の際にメリット・デメリットが判断しにくかったのではないかと考えられます。今後、次世代の公共施設づくりを進めていく際、それらの考え方について知ってもらうような機会を作る必要性を感じさせる結果でした。

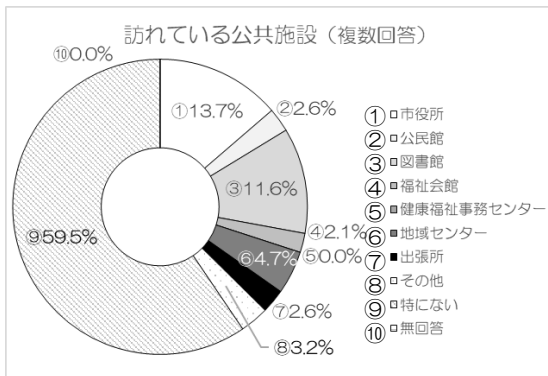
(2) 在勤者

エリア在勤者対象の集計は、総数 1,554 人分のうち、179 人分の回答となっています。以降の円グラフの割合 (%) は、分母を 179 とした場合の各回答数の割合です。

※ただし、複数回答可の場合は、(※) の数字を分母とします。

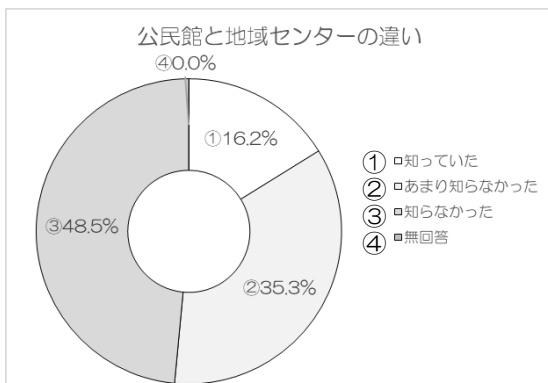


「居住区域」については、市内居住と市外からの通勤で約半々の結果となりました。「年代」については、30歳代が26.3%と最も多かったものの、20歳代（15.6%）、40歳代（20.4%）、50歳代（22.2%）もそれぞれ20%前後いたため、幅広い年齢層の在勤者から回答が得られました。

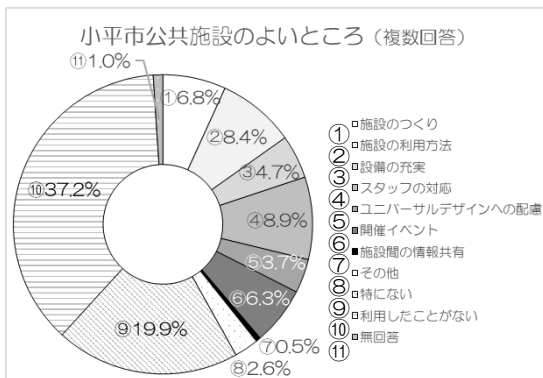


（※複数回答可のため、190のうちの割合）

「訪れている公共施設」については、学生同様、市外からの通勤者がいることや、日中仕事のためなかなか行く機会がないからか、「特にない」が59.5%と最も多い結果となりました。2番目に多い「市役所」の13.7%については、仕事の関係や家族に関する手続きなどによる利用が多いのではないかと推測できます。

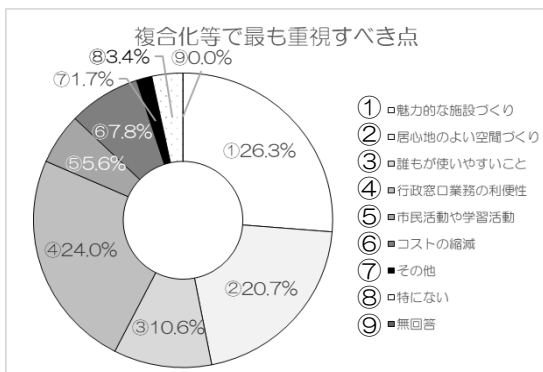


「公民館と地域センターの違い」については、「あまり知らなかった」と「知らなかった」を合わせて、83.8%が認識していないという結果でした。

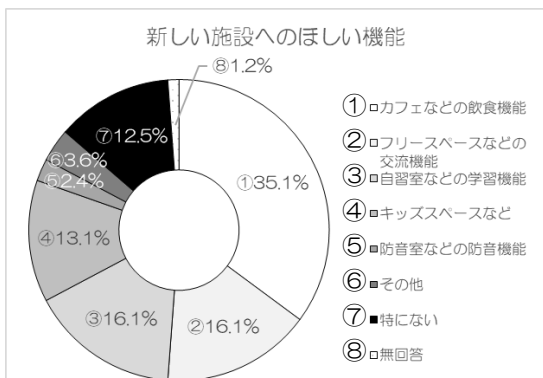


（※複数回答可のため、191 のうちの割合）

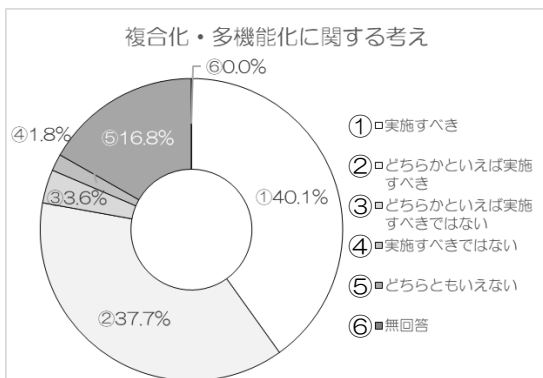
「小平市公共施設のよいところ」については、最も多かったのが「利用したことがない」の37.2%であり、2番目が「特にない」の19.9%でした。在勤者の場合は、日中仕事で公共施設の利用の機会がほとんどないことが要因としては考えられますが、休日に小平市を訪れて公共施設を利用するという機会もほとんどないという傾向が窺えます。



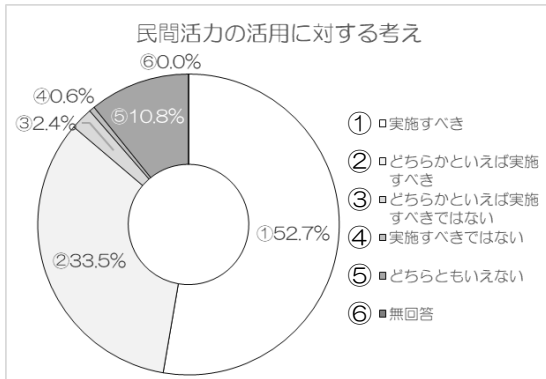
「複合化等で最も重視すべき点」については、「魅力的な施設づくり」が最も多く26.3%、次に「行政窓口業務の利便性」で24.0%、「居心地のよい空間づくり」が3番目で20.7%でした。



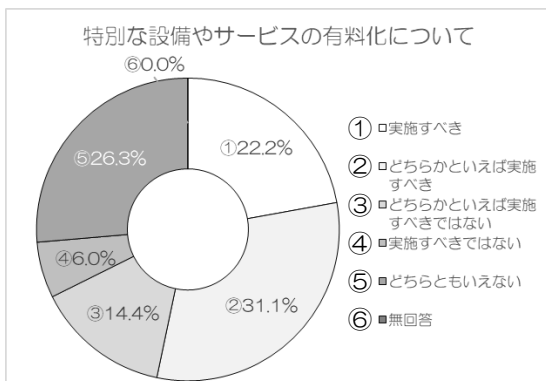
「新しい施設へのほしい機能」については、「カフェなどの飲食機能」が最も多い35.1%でした。



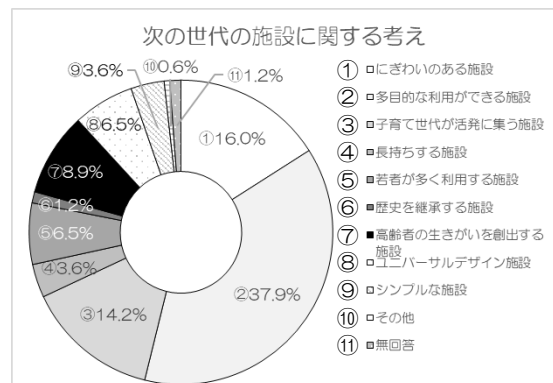
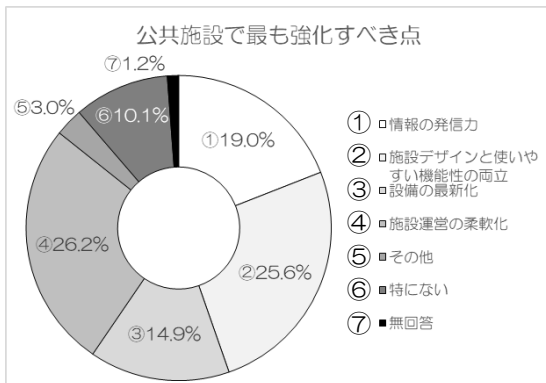
「複合化・多機能化に関する考え」については、「実施すべき」が40.1%、「どちらかといえば実施すべき」が37.7%、「どちらかといえば実施すべきではない」が3.6%、「実施すべきではない」が1.8%、「どちらともいえない」が16.8%という結果となり、どちらかというとな実施する方が良いという考えの合計が77.8%という結果になりました。



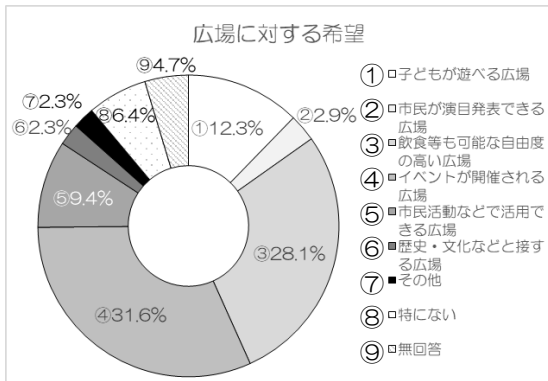
「民間活力の活用に対する考え」については、「実施すべき」が52.7%、「どちらかといえば実施すべき」が33.5%、「どちらかといえば実施すべきではない」が2.4%、「実施すべきではない」が0.6%、「どちらともいえない」が10.8%ということで、どちらかというとも実施する方が良いという考えの合計が86.2%と、8割以上という結果になりました。



「特別な設備やサービスの有料化について」は、「実施すべき」が22.2%、「どちらかといえば実施すべき」が31.1%となり、半分以上が実施する方が良いという結果となりました。



「公共施設で最も強化すべき点」については、最も多いのが「施設運営の柔軟化」の26.2%、次に「施設デザインと使いやすい機能性の両立」の25.6%であり、「次の世代の施設に関する考え」については、最も多かったのが、「多目的な利用ができる施設」で37.9%となりました。



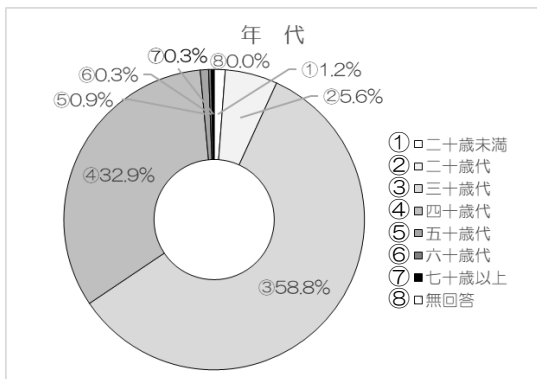
「広場に対する希望」については、最も多いのが「イベントが開催される広場」の31.6%であり、次が「飲食等も可能な自由度の高い広場」の28.1%でした。

全体的に、効率的かつ効果的な公共施設の整備、そして、民間活力の活用による様々な企画が可能な場づくりを期待している傾向が窺える結果となりました。

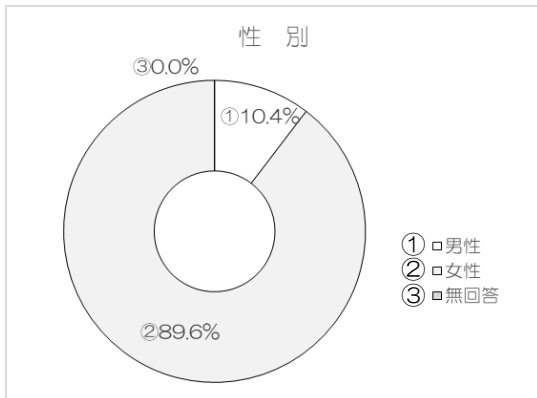
(3) 子育て世代

子育て世代対象の集計は、総数 1,554 人分のうち、337 人分の回答となっています。以降の円グラフの割合 (%) は、分母を 337 とした場合の各回答数の割合です。

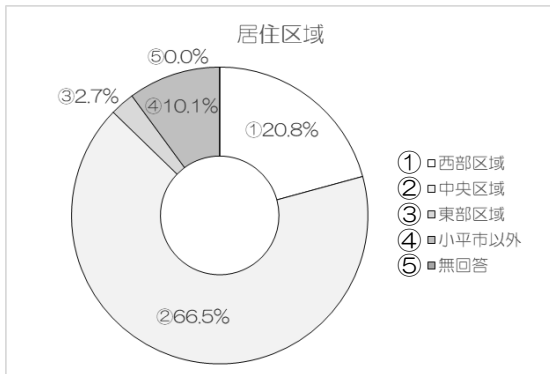
※ただし、複数回答可の場合は、(※) の数字を分母とします。



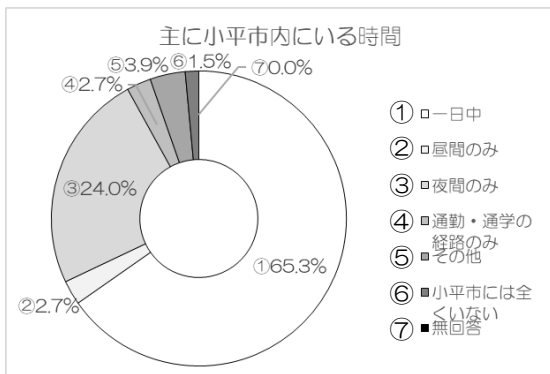
「年代」については、30 歳代の 58.8% が最も多く、次に 40 歳代の 32.9%、3 番目に 20 歳代の 5.6% となりました。



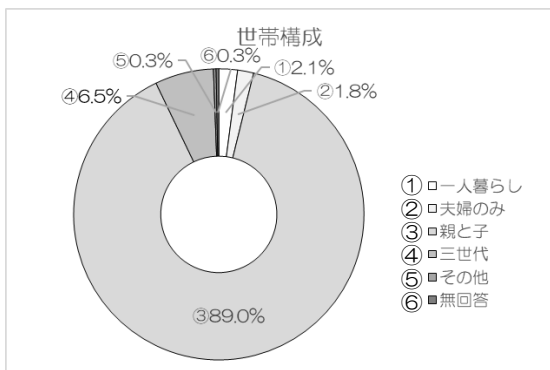
「性別」については、女性が 89.6%、男性が 10.4% という結果で、全体に比べて男女比に差が出ました。



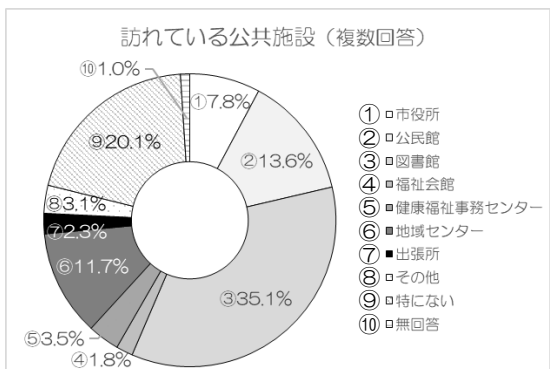
「居住区域」については、中央エリアが66.5%と最も多い結果となりました。



「主に小平市内にいる時間」については、「一日中」が65.3%でした。ただし、「夜間のみ」についても24.0%いることから、男性回答者で勤務しているというケースや、子育て中でも日中は仕事に出ている女性もいることが分かります。

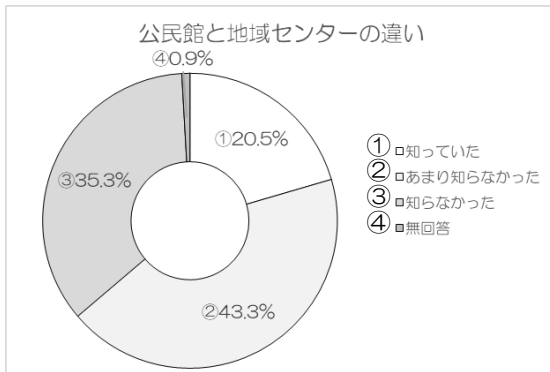


「世帯構成」については、89.0%が、「親と子」でした。

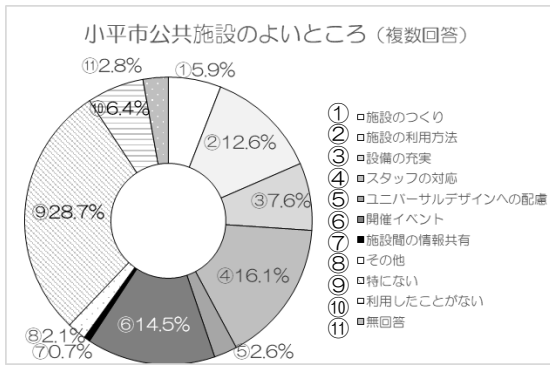


「訪れている公共施設」については、最も多かったのが「図書館」の35.1%であり、次に「公民館」の13.6%、3番目に「地域センター」で11.7%となりました。

(※複数回答可のため、487のうちの割合)

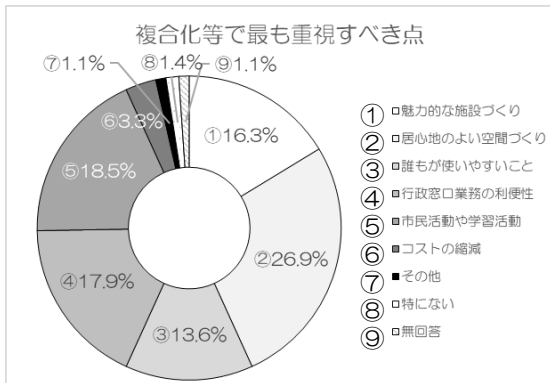


「公民館と地域センターの違い」については、「知っていた」が20.5%であり、「あまり知らなかった」が43.3%、「知らなかった」が35.3%と、8割近くが知らない傾向でした。

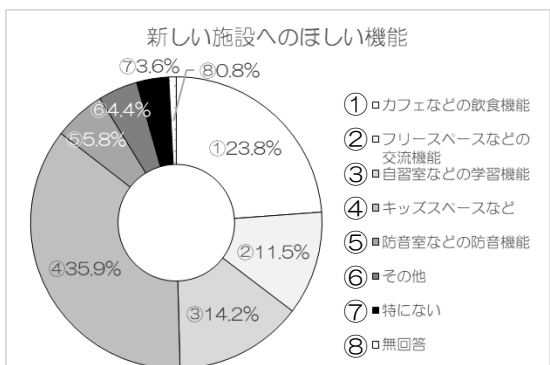


(※複数回答可のため、422のうちの割合)

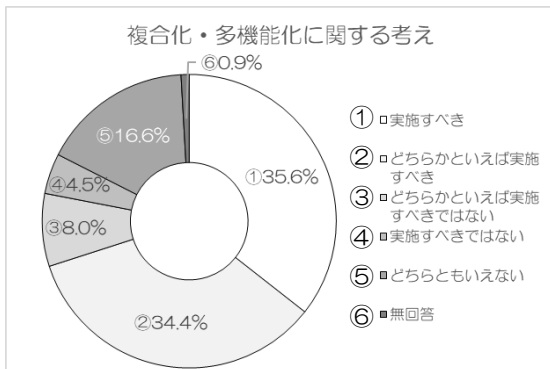
「小平市公共施設のよいところ」については、「特にない」の28.7%が最も多く、次いで、「スタッフの対応」(16.1%)、「開催イベント」(14.5%)、「施設の利用方法」(12.6%)などとなっています。この項目については、学生や在勤者に比べて、「特にない」や「利用したことがない」の割合が少なく、また、評価している項目からは、イベント時や活動で施設を利用していること、スタッフとのやり取りがあることなどが分かるため、子育て世代の施設利用が比較的高いことが分かります。



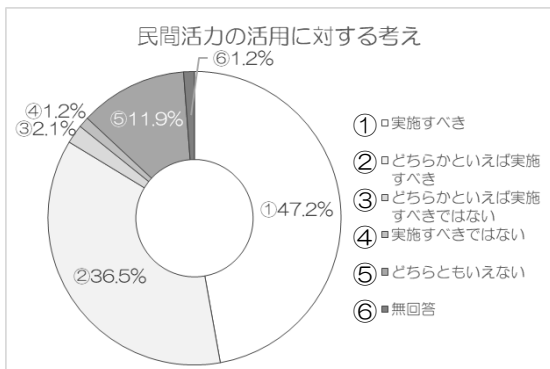
「複合化等で最も重視すべき点」については、「居心地のよい空間づくり」が最も多い26.9%であり、「市民活動や学習活動」(18.5%)と「行政窓口業務の利便性」(17.9%)と「魅力的な施設づくり」(16.3%)については、ほぼ同じくらいの割合で重視されていました。



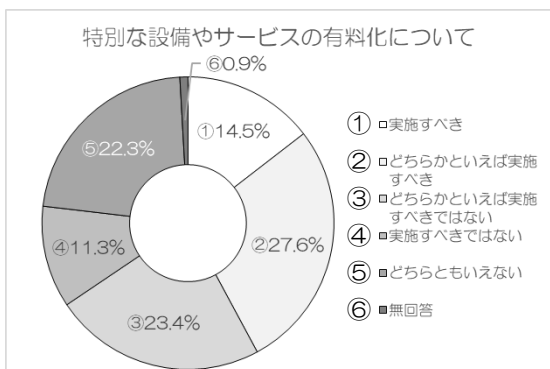
「新しい施設へのほしい機能」については、最も多かったのが「キッズスペースなど」で35.9%、次に「カフェなどの飲食機能」で23.8%となりました。



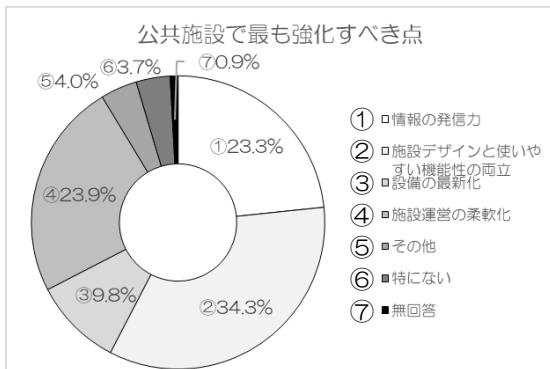
「複合化・多機能化に関する考え」については、「実施すべき」が35.6%、「どちらかといえば実施すべき」が34.4%、「どちらかといえば実施すべきではない」が8.0%、「実施すべきではない」が4.5%、「どちらともいえない」が16.6%という結果で、7割が実施に前向きな考えでした。



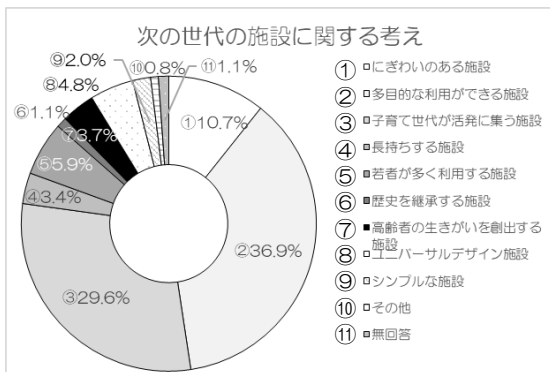
「民間活力の活用に対する考え」については、「実施すべき」が42.7%、「どちらかといえば実施すべき」が36.5%、「どちらかといえば実施すべきではない」が2.1%、「実施すべきではない」が1.2%、「どちらともいえない」が11.9%という結果となり、8割近くが実施に前向きな傾向にありました。



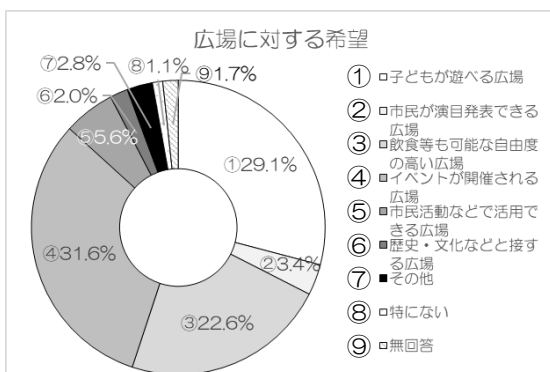
「特別な設備やサービスの有料化について」は、「実施すべき」が14.5%、「どちらかといえば実施すべき」が27.6%に対し、「どちらかといえば実施すべきでない」23.4%、「実施すべきではない」11.3%というように、「実施すべき」寄りが42.1%、「実施すべきではない」寄りが34.7%であり、在勤者の結果に比べると、賛否の割合にあまり差がないという結果でした。これは、実際に子どもを連れて日頃から利用する率が高いことから、有料化によるサービスの向上に期待する面と、逆に料金がかかることで利用しづらくなることを懸念している面が同じくらい意識されているのではないかと傾向が読み取れる結果となりました。



「公共施設で最も強化すべき点」については、最も多かったのが「施設デザインと使いやすい機能性の両立」で34.3%でした。次いでほぼ同じくらいの割合で「施設運営の柔軟化」(23.9%)と「情報の発信力」(23.3%)がありました。



「次の世代の施設に関する考え」については、最も多い「多目的な利用ができる施設」の36.9%に次いで、他の対象と比べて多かったのが、29.6%あった「子育て世代が活発に集う施設」でした。



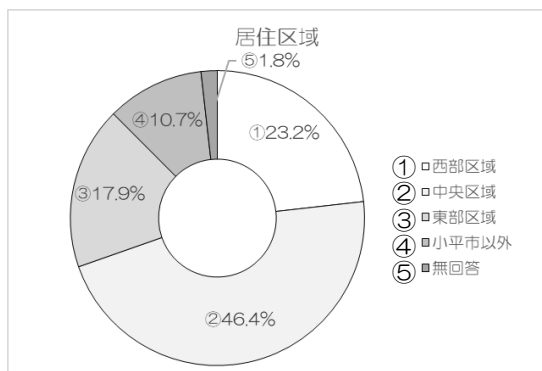
「広場に対する希望」については、「イベントが開催される広場」が最も多い31.6%で、次いで「子どもが遊べる広場」の29.1%、「飲食等も可能な自由度の高い広場」の22.6%でした。

子育て世代を対象とした集計結果としては、全体的に子どもが使いやすいことや、子どもと利用しやすいこと、そして、子育てや子どもが楽しめることに関する企画や情報を求める傾向が見受けられました。また、より一層通いたくなるような施設のサービスの向上を求める一方で、有料化などについては、少しとまどいもあるような様子が窺える結果でした。

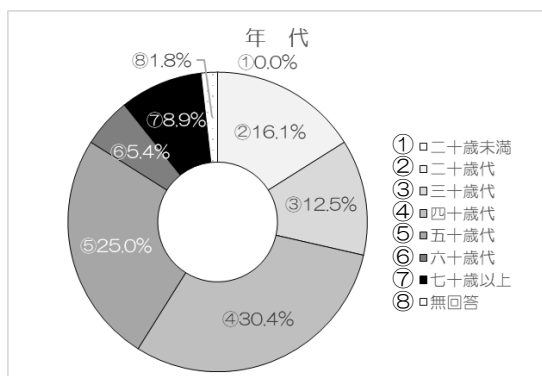
(4) 障がい者

障がい者対象の集計は、総数 1,554 人分のうち、56 人分の回答となっています。
以降の円グラフの割合 (%) は、分母を 56 とした場合の各回答数の割合です。

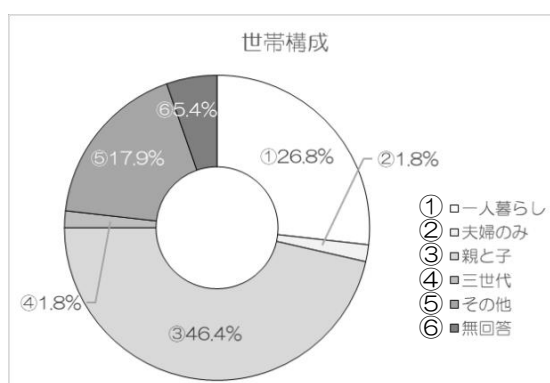
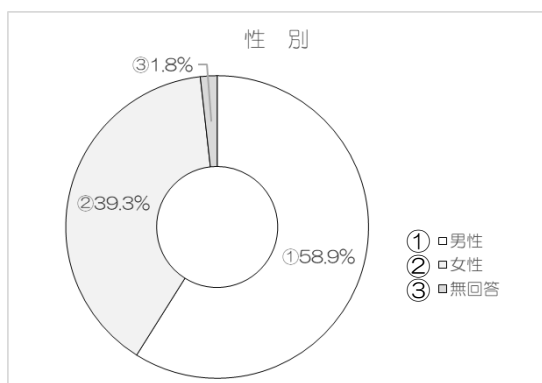
※ただし、複数回答可の場合は、(※) の数字を分母とします。



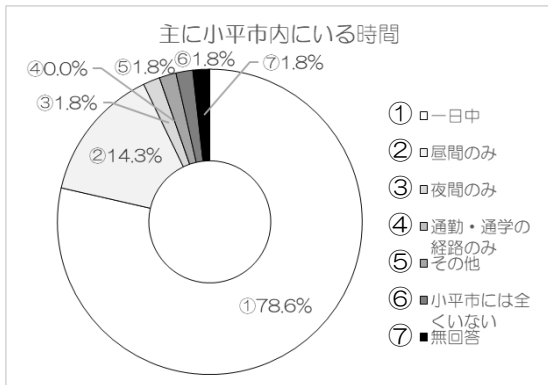
「居住区域」については、中央区域が 46.4%と最も多く、次に西部区域の 23.2%、東部区域が 17.9%、小平市以外からは 10.7%でした。



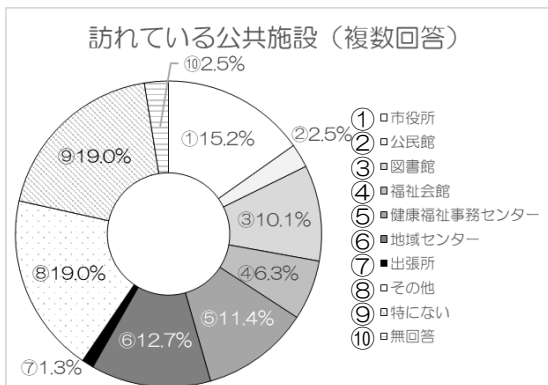
「年代」については、割合の差はあるものの、20 歳代から 50 歳代までが、それぞれ 12~30%位の間であり、60 歳以上については、合わせて 14.3%でした。



「性別」については男性が 58.9%、女性が 39.3%という結果であり、「世帯構成」については、「親と子」が 46.4%、「一人暮らし」が 26.8%、「その他」と「三世帯」は合わせて 19.7%でした。

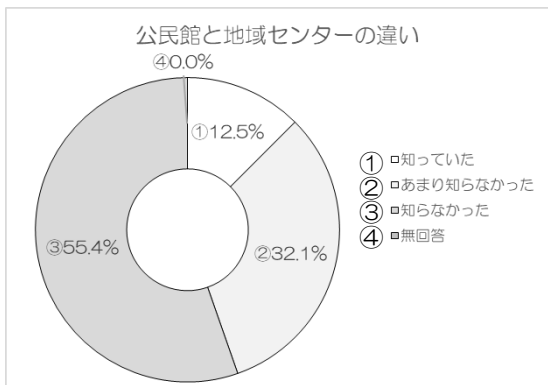


「主に小平市内にいる時間」については、「一日中」が78.6%と最も多く、次いで「昼間のみ」が14.3%でした。

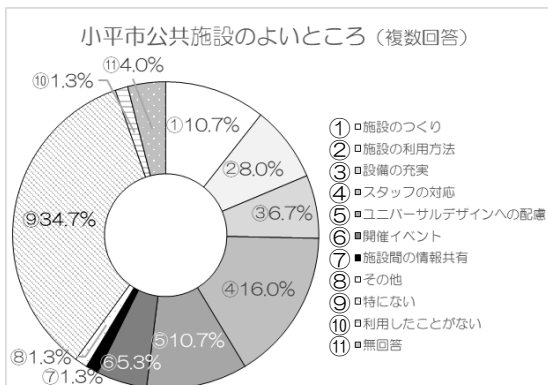


「訪れている公共施設」については、「市役所」が最も多く15.2%ですが、「地域センター」、「健康福祉事務センター」、「図書館」についても、それぞれ10~13%ほどの回答結果となりました。

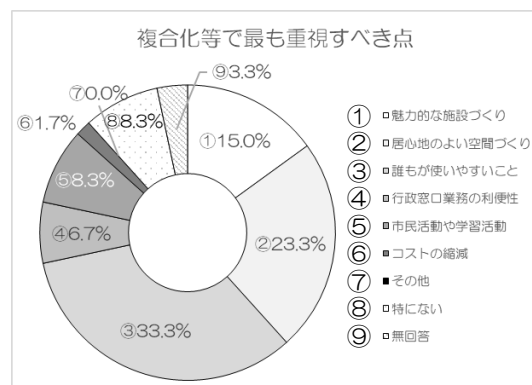
（※複数回答可のため、79のうちの割合）



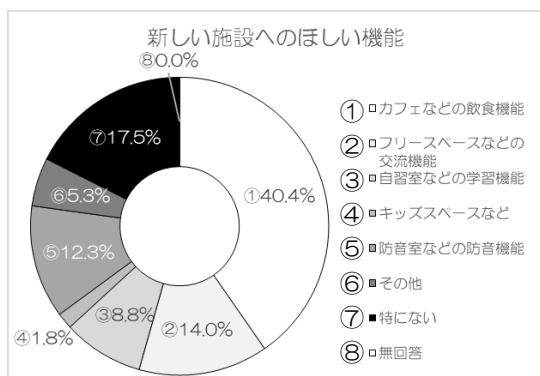
「公民館と地域センターの違い」については、「知っていた」が12.5%であり、「あまり知らなかった」が32.1%、「知らなかった」が55.4%と、多くが知らない傾向にありました。



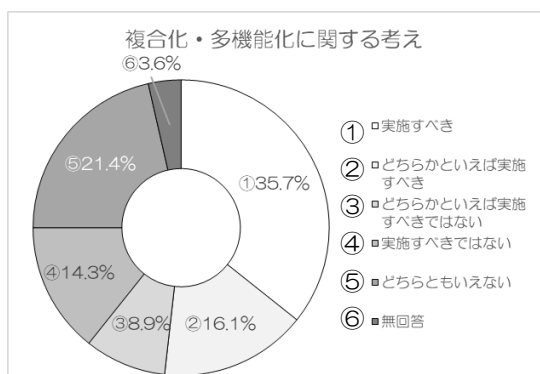
（※複数回答可のため、75のうちの割合）



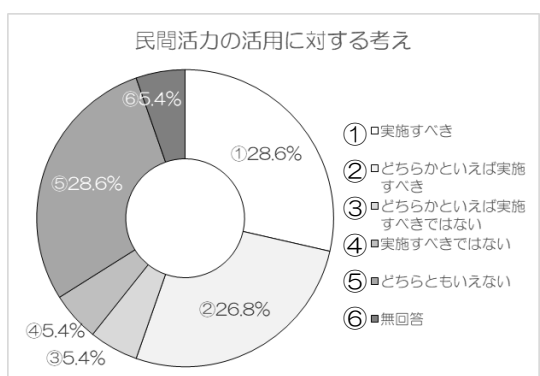
「小平市公共施設のよいところ」については、「特にない」が最も多く 34.7%であり、次に 16.0%の「スタッフの対応」でした。これについては、B 群設問4の「複合化等で最も重視すべき点」においても、「誰もが使いやすいこと」が 33.3%と最も多かったことから、施設そのものへの評価はあまり高くない傾向が分かります。



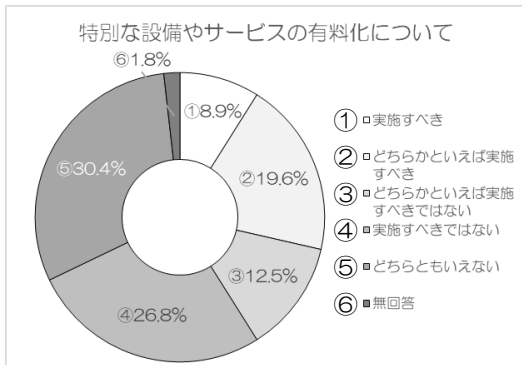
「新しい施設へのほしい機能」については、「カフェなどの飲食機能」が最も多い 40.4%となり、他の対象と変わらず飲食スペースを求めている傾向が分かりました。



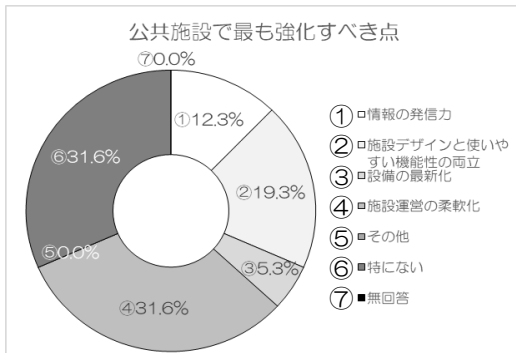
「複合化・多機能化に関する考え」については、「実施すべき」が 35.7%、「どちらかといえば実施すべき」が 16.1%、「どちらかといえば実施すべきではない」が 8.9%、「実施すべきではない」が 14.3%、「どちらともいえない」が 21.4%という結果となり、どちらかというとも実施する方が良いという考えの合計が、51.8%と約半分でした。



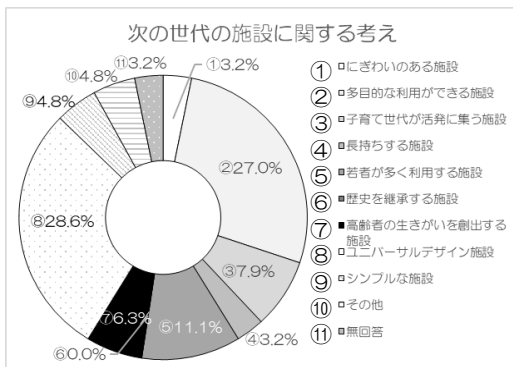
「民間活力の活用に対する考え」については、「実施すべき」が 28.6%、「どちらかといえば実施すべき」が 26.8%、「どちらかといえば実施すべきではない」が 5.4%、「実施すべきではない」5.4%、「どちらともいえない」が 28.6%ということで、どちらかというとも実施する方が良いという考えの合計が 55.4%と過半数であり、実施すべきではない方の結果は合わせても 10.8%であるため、前向きな傾向が見受けられます。



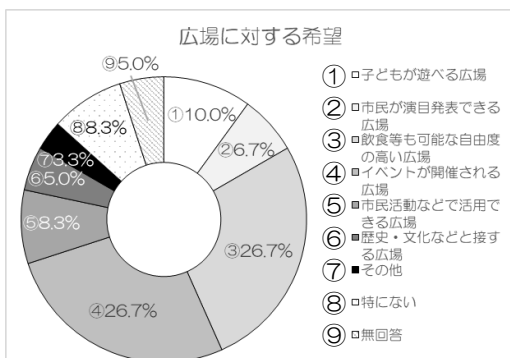
「特別な設備やサービスの有料化について」は、「実施すべき」が8.9%、「どちらかといえば実施すべき」が19.6%、「どちらかといえば実施すべきではない」が12.5%、「実施すべきではない」26.8%、「どちらともいえない」が30.4%という結果となり、他の対象と比べて唯一「実施すべきではない」、「どちらかといえば実施すべきではない」の意見の方が多くなりました。



「公共施設で最も強化すべき点」については、「施設運営の柔軟化」と「特にない」が最も多い31.6%であり、次いで「施設デザインと使いやすい機能性の両立」が19.3%、3番目が「情報の発信力」の12.3%でした。



「次の世代の施設に関する考え」については、最も多かったのが「ユニバーサルデザイン施設」で28.6%であり、次いで「多目的な利用ができる施設」の27.0%でした。



「広場に対する希望」については、「飲食等も可能な広場」と「イベントが開催される広場」が同じ割合で26.7%、その他はそれぞれ10%以下でした。

障がい者の回答の傾向を整理すると、ハード面での施設の利用のしやすさの評価があまり高くないという点と、特別な設備やサービスの有料化に対しては消極的であるという傾向が見受けられる結果となっています。

5. アンケートの結果から

(1) 公共施設への認識・関心について

本アンケート調査の結果としては、まず、市外から通っている学生や通勤者の割合が多かったこともあり、B群における設問1「訪れている公共施設」、設問3「小平市公共施設のよいところ」について、「特にない」と「利用したことがない」が合わせて5割前後という結果でした。それらを除くと、最もよく訪れているのは図書館が多い傾向にあり、施設のよいところについては、ハード面よりも、利用方法やスタッフ対応などのソフト面に対する評価の方が多いたことが分かりました。

また、同じくB群における設問2「公民館と地域センターの違い」については、「知っていた」は全体では2割に満たず、8割ほどが知らない傾向にあることが分かりました。

上記の結果を踏まえると、現在の利用者については、ハード面はもちろんのこと、ソフト面の維持または向上を大事にしつつ、現在利用していない層に対して、公共施設に関する情報発信や興味喚起を行い、利用を促す必要があると思われます。「中央・小川デザインプロジェクト」では、次の世代の施設を考えることを大事にしていることから、学生等の若い層への周知や新しい施設に対する意見収集などの取組みが重要であると言えます。

(2) 公共施設の複合化等について

公共施設の複合化等に関する意見としては、B群設問4「複合化等で最も重視すべき点」で、全般的に「居心地のよい空間づくり」を重視すべきという意見は各対象で一致していますが、「行政窓口業務の利便性」については、中央エリアよりも小川エリアの方が重視している傾向は強く、また、学生などの若者よりも、高齢者や障がい者の方が重視している傾向が強いことも分かりました。

設問6「複合化・多機能化に関する考え」では、全体的には実施していくべきだと考えている人のが多く、全体の約6割程度が前向きに捉えており、実施すべきではないという考えは全体の約1割強でした。ただし、「どちらともいえない」が4分の1を占める結果でした。

上記の結果を踏まえて、市における公共施設づくりでは、複合化の目的や効果、そして複合化すべき機能の整理等を示し、さらに市民の理解を求めることが必要です。

(3) 民間活力の活用や有料化の考え方について

B群における設問7「民間活力の活用に対する考え」については、全体的に実施すべきという傾向の意見が約7割という結果であり、実施すべきではないという傾向については、全体の5%に満たないという結果でした。しかし、同じくB群の設問8「特別な設備やサービスの有料化について」では、実施に前向きな割合とそうでない割合に大差はありませんでした。設問8でも、「どちらともいえない」が3割でしたが、実施すべきではないという意見やどちらともいえないとする回答については、特別な設備やサービスの有料化による利用しづらさが生じることへの懸念があるのではと考えられます。

「民間活力の活用」により、施設の維持管理及び運営にかかる財政負担の軽減や、公共サービスの質の向上を図ることも可能です。また、「次の世代の施設づくり」においては、財政面も踏まえ、市民の利便性や提供すべき公共サービスのあり方についても検討したうえで、コストと質のバランスを検討しながら進めていく必要があります。

(4) これからの公共施設へのニーズについて

これからの公共施設へのニーズとしては、B群における設問5「新しい施設へのほしい機能」で、「カフェなどの飲食機能」が多い傾向がありました。

その他の機能については、学生であれば学習機能と防音機能の割合が他の対象よりも多く、子育て世代であればキッズスペースなどの子ども対応の機能、近隣住民であれば、ふらっと使いやすいようにフリースペースなどの交流可能な場所を求めている傾向が強くなりました。そのため、今後の検討においては、立地、対象、目的等をよく整理しながら検討していくことが重要であるということが分かりました。

設問9「公共施設で最も強化すべき点」では、「施設デザインと使いやすい機能性の両立」が最も多く、デザインも重視しつつ使いやすいという利便性もしっかり守ったものが求められていることが分かりました。

設問10「次の世代の施設に関する考え」においても、「多目的な利用ができる施設」が最も多かったため、これからの施設づくりとしても、「多目的」であることが一つの重要な要素になっていることが分かりました。

(5) 小川駅西口駅前市民広場へのニーズについて

B群における設問11「広場に対する希望」については、小川駅西口にできる予定の市民広場を想定した設問でしたが、中央エリアと小川エリアで、回答者の傾向に大きな差は見受けられませんでした。そのうえで、小川駅西口の新しい市民広場については、飲食等も可能で、自由度が高いこと、イベントが開催されていることなどについて重視している

傾向にありました。設備やコンセプトというよりも、人々が集い、にぎわっているという空間の創出に重きを置いているように思われます。

今後の市民広場の整備に向けて、「中央・小川デザインプロジェクト」全体でいただいた市民広場に関するアイデアも含め、地域に愛される広場づくりが求められます。